

Institute for Language Education  
Aichi University, Nagoya  
**Goken News**  
No. 10 January 2004



蘇州四大庭園のひとつ「留園」：  
中国庭園は自然を再現した奇景と人工的建造物が対照  
をなして配置されていることが特徴のひとつである。

CONTENTS

- ・映画『フリーダ』のメキシコ文化  
入門としての役割  
(丸谷雄一郎) ..... 2
- ・中国の携帯電話  
(鄭 高咏) ..... 3
- ・中国のカンフー・武俠映画  
(藤森 猛) ..... 5
- ・イングランドにおける語学教育の動向  
「21世紀国家戦略」  
(平尾 節子) ..... 6
- ・ジョージ・オーウェルの紅茶道  
(安藤 聡) ..... 11
- ・たばこ屋店主たちのストライキ  
フランスの喫煙事情  
(田川 光照) ..... 14
- 海外最新事情 ..... 16
  - ・イギリス
  - ・アメリカ
  - ・ドイツ
  - ・フランス
  - ・中国

## 映画『フリーダ』のメキシコ文化入門としての役割

経営学部  
丸谷雄一郎

『フリーダ』は2003年のアカデミー賞で2部門（作曲賞、メイクアップ賞）を受賞し、フリーダを演じる「サルマ・ハエック」は製作も担当し、主演女優賞にノミネートされた。監督はミュージカル『ライオンキング』の演出や、シェイクスピアの名作戯曲「タイタン・アンドロニカス」を映像化した『タイタス』で衝撃的な印象を与えた「ジュリー・テイモア」である。

映画はタイトルとなっているメキシコの女性画家「フリーダ・カーロ」の一生を、その夫で1922年に始まったメキシコ壁画運動の3巨匠の1人である「ディエゴ・リベラ」との愛の変遷を通じて描いている（メキシコ壁画運動に関して詳細は、加藤薫『メキシコ壁画運動』現代図書、2003年を参照）。

主人公フリーダは1907年に生まれ、お転婆な少女だったが、18歳で遭遇したバスの大事故によって全身を骨折し、棍棒が子宮を貫通し、一生を肉体的な痛みの中で過ごした。そして、ディエゴとの結婚生活は、彼女に精神的な痛みを一生与え続けることになった。ディエゴはロシアからの亡命者トロツキーをはじめ多くの文化人を受け入れていた当時のメキシコサロンの中心であり、際限ない浮気を続け、フリーダの実妹との浮気は決定的な痛みを与えた。しかし、彼の与えた痛みが肉肉にも彼女の中の才能を具現化することになった。映画の中でも、彼女の自画像を中心とする多くの作品が彼女の心情を象徴的に示すのに用いられている。



フリーダに酷似する主演女優サルマ・ハエック  
(写真はアスミック・エース エンタテインメント株式会社より提供していただきました。)

この映画は、「フリーダ初心者への入門」的位置づけでみると非常に興味深い。多くのメキシコを題材としたハリウッド映画は、非常に表面的なメキシコのイメージを描いてきた。この映画も一部に工夫がこらされているとはいえ、非常に表面的であり、解説的である。フリーダの絵画を見たときに受ける「痛さ」はほとんど感じられないし、この映画が描くメキシコのイメージも観光ガイドの域を出ない。ロシアから亡命したトロツキーがフリーダとともに、メキシコシティ郊外のティオティワカンのピラミッドを登るシーンにおいて、トロツキーがティオティワカンのピラミッドの上から平原をみて、メキシコ全体を語っているシーンがあるのだが、メキシコ初心者トロツキーの語りは、この映画の対象であるメキシコ初心者のメキシコに対するフロンティアとしてのイメージを代弁しているように感じられた。

私はこうしたメキシコに対する多くのアメリカ映画の描き方に嫌悪感を覚えてきた。しかし、この映画の入門書的な表現をなぜか心地よく見てしまった。おそらく、この心地よさの源泉は、映画の中に現れた製作者達のメキシコへの思いにあるのだろう。フリーダを演じる「サルマ・ハエック」は自身をフリーダに酷似させ（写真参照）、ディエゴを演じる「アルフレッド・モリーナ」も体重

を増やした上に詰め物までして、ディエゴの象のようなイメージを醸し出した。スタッフにもメキシコ出身者を多く配し、特に、撮影の「ロドリゴ・ブリエト（語研ニュース第7号で紹介した「アモレス・ペロス」でメキシコの現在を描き出した）」は、アメリカ人に理解できるメキシコのイメージを素直に伝えようとしている。

当時のメキシコ文化は、この映画の描く表面的なイメージとはかけ離れ、古代文明の中心としてのメキシコ、植民地時代のメキシコ、革命後のナショナリズムが台頭したメキシコが融合した非常に複雑なものであった。しかし、メキシコ初心者にとって、2時間余といった時間でこうした複雑な構図を理解し、独特の世界観に入っていくことは難しい。

この映画は複雑な構図を持ち、欧米と異なる世界観を持つメキシコ文化を、初心者にとってわかりやすく示している。この映画を見た後、実際にフリーダの作品やディエゴの壁画をみれば、メキシコ文化に対する理解が深まるだろう。特に、フリーダの作品の多くは、彼女の肉体的精神的痛みを理解することで始めて感動を与える作品であり、そういった意味でも、この映画は彼女の作品を理解するための入門書的な役割を十分果たしう力を持っている。

こうした映画のメキシコ入門的役割は製作されたアメリカだけではなく、日本でも変わらない。この映画公開にあわせて、フリーダ関連の展覧会（東京、大阪の後、名古屋では名古屋市美術館で11月1日より12月21日まで「フリーダ・カーロとその時代」として開催後、高知へ）が開催され、雑誌での特集なども組まれた。ぜひ、映画を先にみて、展覧会を訪れることをおすすめする（もちろんメキシコを訪れる際にも、事前にみておくことをおすすめする）。この展覧会では、映画でも登場した多くのメキシコの芸術家達の作品も多く紹介されている。

また、岡本太郎がこの度メキシコで制作した壁画が発見され、メキシコの壁画芸術が注目されているが、フリーダの夫ディエゴ・リベラに代表さ

れるメキシコ壁画運動時の作品もスケールが大きく独特の色彩感覚がすばらしいので、メキシコを訪れる機会があればぜひ鑑賞して欲しい。

## 中国の携帯電話

法学部  
鄭 高咏

カラーテレビ、冷蔵庫、洗濯機。この三つの電気製品を、かつて日本では「三種の神器」と呼んだそうですね。日本が敗戦から立ち直り、たくましい経済成長を始めた一九五〇年代から六〇年代にかけて、市民にとって「おかねがあれば買いたい製品」が、この三つだったと聞いています。

テレビや冷蔵庫がすでに普及してしまった現在の「三種の神器」とはなんでしょうか。

先日、大学で新聞を読んでいたら「プラズマテレビとデジタルカメラ、DVDレコーダーが新しい三種の神器と呼ばれる」とありました。

量販店ではこの三つが大人気だとか。洗濯機や冷蔵庫などは家事を楽にしてくれる電気製品として普及しましたが、現代は生活をより楽しく、充実させてくれる製品が売れるようです。みなさんにとっても「おかねがあれば買いたい製品」はこの三つではないでしょうか。

ところで、中国でも市民に人気がある製品を「三種の神器」と似た言葉で呼ぶことがあります。中国語で「三件」と言います。

十年くらい前までは、中国の大学生のあこがれの「三件」は「ラジオ、ウォークマン、ポケベル」でした。日本とちょっと似てますね。

では、現在はなんでしょうか。知人から聞いた話ですが、浙江省の有名な大学、浙江大学（中国では最難関の大学のひとつと言われています）では、合格した子供に「パソコン、携帯電話、MP3プレーヤー」の三つをプレゼントする親が目立つそうです。

例えばパソコンですが、授業などに利用するため、持ち運びが便利なノートブック型に人気があります。一クラス五十人の生徒がいれば十人前後が持っているほどで、おかねに余裕がない学生も友人と共同で購入したり、先輩の使ったパソコンを安く譲ってもらったりしています。

パソコンほど高価ではなく、比較的購入しやすい製品は携帯電話でしょう。浙江大学では約八割の学生が自分の携帯電話を所有しているといえます。

ここで、中国の携帯電話事情を紹介したいと思います。

私も今夏、北京に里帰りした際に、携帯電話を購入しました。十年前に買った「三星」ブランドの携帯が古くなったため、市内の量販店へ出かけたのですが、店内に展示されている製品の種類の多さに驚かされました。

「摩托羅拉（モトローラ）」「諾基亞（ノキア）」「西門子（シーメンス）」といった外国ブランドのほか、「波導（パード）」「TCL」「東信」など中国の企業の製品もよく売られています。松下など日本のブランドはあまり人気がありませんでした。店員によると「価格が高いのが人気がない理由」とのことでした。

中国の携帯はいくらくらいするのでしょうか。私が買ったのは中国のメーカーが生産しているもので、二千五百八十元でした。一元は日本円で約十四円ですから、三万六千円くらいでしょうか。手のひらに収まる、可愛いらしい形で、色がとても気に入ったのですが、中国の一般に市民にしてみるとちょっと高いですね。もちろん、店では千円を下回る製品も販売しています。最も安いもので五百元程度でしょうか。

政府の統計によると、中国全体の携帯電話の利

用者は今年四月末までに二億二千六百万人にまで増えました。いまや中国は「世界最大の携帯利用国」になっています。十年くらい前は、ビール瓶のような大きくて重たいモトローラの携帯が一台一万元以上もしたのですが、いまでは国産品でも小型で使いやすいものがたくさん出ています。

カメラ付き携帯も販売され、若者らの間で流行し始めています。価格は四千元前後と高額なので、日本のように普及はまだしていませんが、観光地などに行くと、カメラの代わりに携帯で記念写真をとっている風景を目にします。

携帯を使ったメールのやりとりは日常化しています。「短情報」と呼ぶメールはインターネット経由ではなくて、相手の電話番号あてに発信するものです。

電話機のボタンにAからZまでの文字が印刷されており、ピンインで漢字を探して入力します。街角で携帯の画面をにらみながら、一生懸命、親指を動かしている姿は中国でも珍しくありません。

最近ではPHSも利用され始めました。日本の技術をもとにしたもので、中国での呼び名は「小靈通」。「靈通」はもともと「耳が早い」といった意味があります。PHSを使うとニュースがいち早くキャッチできる、といったPRの気持ちが込められているのかも知れませんね。

携帯に比べて利用料金は半分程度といえます。中国では携帯電話をかけると、かけた方も受けた方も、双方が通話料を払う必要があります。「小靈通」は日本と同様にかけた側だけに料金がかかるため、割安なのだそうです。

もっとも、通常の携帯と違ってこちらは利用できる地域が限定されています。北京、上海、広州の三大都市では一部の地域でしか使えません。また、例えば北京の利用者は北京市内にしか、かけることができません。このため、地方に住んでいる人が同じ地域に住む友人や親せきを相手に使う、といった利用が一般的なようです。

日本で携帯電話が生活に欠かせない道具であるように、中国人にとっても携帯は、すでに大切な情報伝達的手段になっています。

広大な面積を持つ中国では、これまで都市部と農村部、あるいは東部と西部の距離があまりに遠く、互いのコミュニケーションが十分ではない面がありました。

このため、国内に無数の方言を生んだともいわれています。「北京語」と「上海語」、「広東語」がまったく異なるように、地方によって話されている言葉は千差万別。一つ山を越えただけで、方言が変わってしまうケースもよくあります。

携帯電話の普及は今後、中国の国内のコミュニケーションをより円滑にしてくれるはずですが、地域間の情報の格差も減るのではないのでしょうか。そうすれば、内陸部などの経済発展が促されるかも知れませんが、何気なく使っている携帯を眺めていると、そんな明るい将来が想像されてくるのです。

## 中国のカンフー・武俠映画

現代中国学部  
藤森 猛

剣や刀の立ち回りアクションを主とする「チャンバラ映画」は、中国語で「武俠片」といわれ、少林寺などの素手による拳法を主とする「カンフー映画」は「功夫片」といわれる。これらの映画ジャンルは、1970年代の「李小龍」（リ・シアオロン；ブルース・リー）、「成龍」（チャン・ロン；ジャッキー・チェン）の出現により香港映画の代名詞となってきた。80年代以降、中国大陸でも「武術片」、「武打片」、「動作片」などと呼ばれるカンフー・武俠映画が数多く制作されるようになり、2002年、

張芸謀（ジャン・イーモウ）監督による『HERO』が生まれた。

### 『女俠李飛飛』

香港の武俠映画は、いわゆる「任俠映画」に芸術アクションの要素を加えたものであり、1925年の『女俠李飛飛』がそのルーツであるといわれている。邵酔翁ら4兄弟からなる“邵氏兄弟”（ショウ・ブラザーズ）が経営する天一影業公司によって制作が行われた。また49年に『黄飛鴻伝』が制作され、以後50年代には、映画とテレビにおいて『黄飛鴻』ものがヒットし、わが国の『水戸黄門』・『銭形平次』などに匹敵する長寿番組・シリーズ映画となった。

またショウ・ブラザーズからは、胡金銓（フー・ジンチュエン；キン・フー）監督が64年『大地児童女』、66年『大酔俠』をはじめとする武俠映画の話題作を次々と送り出し、60年代から80年代にかけての香港武俠映画のブームを支えた。

一方中国大陸では、“第一代導演”（第一世代監督）である張石川（ジャン・シーチュアン）監督によって、1928年『火燒紅蓮寺』が撮られ、いわゆる「武俠小説」を原作として武俠映画を制作する作品の模範となった。しかし49年の新中国成立後は、武俠映画の制作の中心は香港へと移り、1982年の香港映画『少林寺』の公開まで、中国大陸の映画観衆が武俠映画を見る機会はなかったといえる。

### 『龍争虎門』

香港のカンフー映画の台頭は、1971年の『唐山大兄』（ドラゴン危機一発）のヒットに始まる。アメリカ生まれの李小龍が香港の「嘉禾」（ゴールデン・ハーベスト）に移り、以後の香港カンフー映画ブームに火をつけた。わが国においては、73年の李小龍の急逝前後に公開された72年『精武門』（ドラゴン怒りの鉄拳）、73年『龍争虎門』（燃えよドラゴン）などの作品で、空前のカンフー映画ブームが起こった。

78年『酔拳』（ドラゴン・モンキーノ酔拳）が

ヒットし、香港生まれの成龍がカンフー映画の新しいスターとなる。“喜劇片”(コメディ映画)の要素を多用した娯楽作品は、わが国においても80年代からブームを呼び、95年『紅番区』(レッド・ブロンクス)などにより、アメリカにおける本格的な進出に成功した。2000年『龍旋風』(シャンハイ・ヌーン)のヒットは記憶に新しい。

また80~90年代にかけ、“香港新浪潮電影”(香港ニューウェーブ)の中心的な存在となった徐克(シュー・カー; ツイ・ハーク)監督や呉宇森(ウー・ユイーセン; ジョン・ウー)監督が台頭し、犯罪・アクション・刑事ものの映画の中でカンフー映画の手法が多用された。



映画『龍旋風』の看板(2000、上海)

『英雄』

中国大陸における本格的なカンフー・武俠映画制作の再開は90年『双旗鎮刀客』(そうきちんとうきやく)であり、“西部片”(西部劇)、“面条西部片”(マカロニウエスタン)や黒澤明の影響を受けた映画作りが話題を呼んだ。制作は“第五代導演”(第五世代監督)に属する何平(ハー・ピン)監督によっておこなわれた。

94年には、香港で最も売れっ子となった王家衛(ワン・ジアウェイ; ウォン・カーウアイ)監督によって、『東邪西毒』(楽園の瑕)が制作された。2002年4月1日に自らの命を絶った香港のトップスター張国榮(ジャン・グオロン; レスリー・チャン)と梁家輝(リャン・ジアファイ; レオン・カーファイ)が侠客を演じた。

2002年12月に中国において公開が開始された

『英雄』(HERO)は、2003年のアカデミー外国作品賞にノミネートされ、わが国においても2003年の夏からロードショー公開が続いている。第五世代である張芸謀監督の初のカンフー・武俠映画の娯楽大作であり、香港の人気スターの李連傑(リ・リエンジエ; ジェット・リー)、梁朝偉(リャン・チャオウェイ; トニー・レオン)、張曼玉(ジャン・マンユイ; マギー・チャン)、中国大陸の章子怡(ジャン・ズイー)が剣客として登場した。また陳道明(チェン・ダオミン)の始皇帝役も見逃せない。『HERO』は中国の“歴史片”(歴史ものの映画)、“愛情片”(恋愛映画)に香港の“武俠片”(武俠映画)“功夫片”(カンフー映画)の要素をとり入れた娯楽大作であるといえる。

これらの作品はビデオ・VCD・DVDで市販されているので、是非観賞をすすめたい。なお中国映画をもっと知りたい人は、愛知大学現代中国学部編『ハンドブック 現代中国』あるむ・2003年、愛知大学現代中国学会編『中国21 Vol.11 現代中国映画研究』風媒社・2001年の2冊を参照してください。

## イングランドにおける語学 教育の動向 「21世紀国家戦略」

法学部  
平尾 節子

イギリスの首相 Tony Blair は国の政策の第1優先事項として「教育」、第2第3の重要事項も「教育」、「教育」を挙げている。1999年 Oxford 大学 Sheldonian Theatre の年次講演において「21世紀の教育と人的資本」というタイトルで、

次のように声明した。

英語は、新しい時代のリング・フランカである。これはイギリス国民にとって有利なことである。特に、教育の上で大きな利点となる。しかし、その利点は我々1人ひとりが新しいヨーロッパ、そして、より広い世界に踏み出していく能力如何にかかっている。言語学習は、早く始めれば早いほど、容易であることは、だれでも知っている。イギリスで、現在、外国語が、中等学校から必修となっているのはよいことである。しかし、もっと早く始めれば、優位なスタートがきれる。すでによくつかの小学校では、この早期学習に関して優れた実績をあげている。どの学校も、読み・書き、・計算の基礎学力を重視する傾向があるが、公立小学校における、外国語教育の導入の重要性を真剣に考えているところである。

EU(ヨーロッパ連合)においては“The European Year of Languages 2001”の提唱以来「1+2」の言語政策のもと、小学校から外国語教育が導入されている。すなわち「母語」を習得し「外国語を2ヶ国語」以上学習する。「多様な言語はヨーロッパの文化遺産である」という理念のもと、EUは多言語・多文化・多民族の共存と発展を目指している。EUの2000年度統計によれば、EUの小学校の90.5%が外国語を学習している。また、ヨーロッパの小学生3人中2人は、すでに英語を学んでいる。EU加盟国15ヶ国中、公立小学校で外国語学習が必修になっていないのは、イギリスだけである。

実際に、今年8月15日付、イギリスの最大新聞タイムズ紙に、学生の外国語離れが報じられた。大学進学に必要とされるGCE・Aレベル試験において、フランス語、ドイツ語の選択率が過去7年間で、それぞれ23%、16%下降している。代わって、コンピュータや、ICT (Information Communication Technology) を選択する傾向がある。この明確な事実をふまえて、イギリスは、

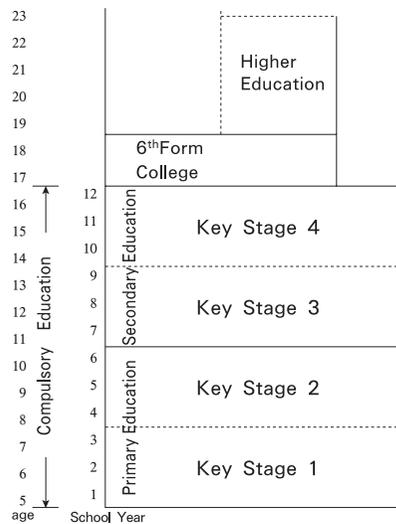
従来の「英語・単一言語主義」とも言える施策の継続は、もはやできない事態となっていることは、ブレア首相の講演からも明らかである。

2002年12月、教育改革の政府プランが打ち出された。今後10年間の展望のもとに、外国語教育改革の達成をめざしていく国家戦略である。

筆者は、2003年3月パース大学で開催されたAAL (Association of All Languages) 学会で、最新の動向に関する講演を聞く機会に恵まれた。早期外国語教育のパイロット・スクールも訪問し、関係の参考資料を得ることができた。イギリスにおける外国語 (Modern Foreign Languages 現代外国語) 教育が、現在、大きく変貌しつつあることを実感した。

### イングランドの学校教育制度

イギリスは、イングランド、ウエールズ、スコットランド、(以上3地域をグレート・ブリテンと言う) および北アイルランドの4地域からなる。総称してUK (United Kingdom) と称する。前2者はほぼ同様の教育制度であるが、後の2地域はやや異なっている。本稿では、イギリスの全人口の約90%を占めるイングランド・ウエールズの学校教育制度を中心として述べる。以下、イングランドと記述する。



## イングランドにおける教育改革の経緯

### 「1994年の改革教育法」

\* 初等教育から中等教育へ進学する年齢は、11歳とされた。いわゆる“11-plus-examination”と呼ばれる「11歳テスト」を行い、成績順位によって3タイプの中高等学校に振り分けた。

- 1) グラマー・スクール (大学への進学を目指す者のための7年制の中高等学校)、
- 2) テクニカル・スクール (特に技術系の教科に重点を置いた7年制の学校)、
- 3) モダン・スクール (グラマー・スクールに進学しない生徒の学校で5年制)

結果、約20%の児童がグラマー・スクールへ、約75%は、テクニカル・スクール、またはモダン・スクールへ進学した。11歳の時点で、能力別選別により、子どもの将来がほぼ決定されてしまう制度に批判が生じ、労働党政権となった1965年以降、11-plus-exam は廃止され、無試験で受け入れるコンプレヘンシブ・スクール (総合制中高等学校) が、全国的に導入された。

### 「1988教育改革法」

サッチャー首相の英断により、イングランドとウェールズの教育制度が劇的変革を遂げた。

- \* 5歳から16歳の義務教育において、全国共通カリキュラムを導入。
- \* 7歳、11歳、14歳、16歳の時点で、その学習到達度を図る国家統一テストを導入。
- \* 学習到達目標を、英語、数学、科学の“Core-subjects”「中核教科」で設定。



マーガレット・サッチャー首相・記念国際会議場

## 学習到達目標

全国共通カリキュラムの教科の内容は、教育大

臣が省令によって定め、学習計画、および学習の到達目標が、英語 (国語)、数学、科学の3教科、いわゆる‘core-subjects’「中核教科」に対して設定される。これらの‘core-subjects’に、技術、歴史、地理、芸術、音楽、体育を加え、‘foundation subjects’:「基礎教科」とし必修である。中高等学校においては、現代外国語が1ヶ国語必修である。

## 到達度評価

「1998年教育改革法」では全国共通カリキュラムの導入と併せて、生徒の到達度評価を実施することとされている。すなわち、小学校の、7歳時、11歳時、14歳時に、全国統一試験を受け、到達度を評価される。

## 中等教育における国家統一の資格試験

GCSE (General Certificate of Secondary Education): 「中等教育修了証」は、Key Stage 4 (16歳) で受験する国家共通資格試験である。GCSE 試験は、義務教育の最終段階における試験で、生徒は多数の試験科目の中から将来の進路などに応じて、通常5科目以上を選んで受験する。その評価は、科目ごとに最高Aから最低Gまでの7段階で示され、Gに達しない者は、不合格とされる。

GCE (General Certificate of Education) Advanced Level (A-level): 「教育修了一般資格」上級 (GCE・Aレベル) 試験は、中等教育の最終段階において、主として、大学進学希望者が受験する。その評価は、A~E, N, Uの順に7段階で行われ、A~Eが合格となっている。大学入学にあたっては、一般に3科目において、A~Cの成績が要求される。GCE・AS (Advanced Supplementary) = 準上級レベル試験が1989年から実施されている。ASレベルは、Aレベルの半分の履修時間で学習できる内容で、大学への入学選抜にあたっては、ASレベル2科目が、Aレベル1科目に相当する。

GCSE および GCE は、受験した科目についての成績証明書の性格をもち、大学進学や、就職に

あたって重要な資格の一つである。日本と大きく異なって、イギリスでは、学校卒業時に卒業証書を授与するという制度になっていない。GCSE および GCE 試験に合格しなければ、学校を出ても、何の資格も得られないのである。GCSE および GCE 試験の結果は、'League Tables' 「リーグ・テーブル」と呼ばれ、全国一斉に公表され、全国主要新聞にも大々的に報道される。

2003年度 GCSE および GCE・Aレベルの結果  
インデペンデント紙は、「GCSE 合格率10年間で最低」という見出しを掲げ、次のように記した。

60万人の受験者中、17万人を超える不合格者が出た。特に、フランス語、ドイツ語における不合格者は、昨年の倍以上にのぼる。昨年は、3万人であったが、今年は、6万人もの若者が11年間の学校教育に対して何の資格も得ずに、学校を去ることになる。

政府は、小学校における外国語教育の推進を図り、10年後までには、全ての7歳の児童に、外国語を1カ国語を学習させる。教育省は、「本格的に改革を進める」との声明を出した。

「イングランドの外国語教育・国家戦略2003」とは  
イングランドにおける外国語の運用能力を向上させるために、学校教育およびその後の語学学習の多様な機会を広げ、より充実させる国家プランである。MFL (現代外国語教育) についての政府のビジョンが次のように述べられている。



オックスフォード大学・サマヴィル・カレッジ

今日グローバルな社会で英語以外の言語を理解し、コミュニケーションをする能力は極めて重要である。多様な言語は、社会の文化的言語的豊かさをもたらし、人間性の涵養、相互理解、経済上の成功、国際貿易、地球市民へ貢献する。

- \* 早期言語教育の機会を提供し、子どもたちの学習に対する可能性と熱意を促進する
- \* 質の高い教育と学習の機会を提供し、職業上および旅行等で必要とされる技能を養成する
- \* 生涯学習の機会を提供する
- \* 言語運用技能は、国内、他の国家間との障壁を取り除く中心的役割を果たすものと認識する
- \* イングランドの言語運用能力を向上させ、国際的信頼を獲得する

'Languages for All: Language for Life' の目的

- \* あらゆる言語を、すべての人、あらゆる年令層対象に語学教育・語学学習を推進する
- \* 小学校の Key Stage 2 (7歳) からの早期外国語学習を積極的に導入する
- \* GCE, GCSE などの資格試験制度の中に MFL の位置付けを確実にする
- \* 到達度評価を "National Language Standards" および "European Common Language Framework" (ヨーロッパ共通言語基準) のレベルとリンクさせる
- \* 語学学習人口を増やす

イングランドの早期外国語教育：

小学校における MFL (Modern Foreign Language) 現代外国語教育「イングランドの外国語教育・国家戦略」は次の事項を10年後までに達成すると表明している。

- \* 小学校の Key Stage 2 (7歳 - 11歳) で、外国語を少なくとも1カ国語履修する
- \* 外国の文化に対する興味・関心を高める
- \* ネイティブ・スピーカーの教員や e-learning などを活用できる質の高い学習の機会をもつ
- \* 11歳までに、The Common European

Framework (ヨーロッパ言語共通基準) に示されている運用能力の基準レベルに到達する

\* イングランドのナショナル基準レベルの能力を培う

\* ICT (Information Communication Technology) を有効に活用する

早期外国語教育の先導的パイロット・プロジェクト

1999年 から2003年、早期外国語教育のパイロット・プロジェクトが、政府機関、および地方教育当局が参加し、“Good Practice” の実践模範校の開発および普及を図っている。

ロンドン、リバープール、バーミンガム、ノッティンガム、ランカスター、パース、ヨーク、シェフィールド、リトン各市、ケント、ヨークシャー州などでは、7才からの外国語教育の実践校の活躍がめざましい。



Train up a Child in the way he should go.  
(オックスフォード大学図書館)



シェフィールドの小学校の外国語授業風景

イングランドにおける最近の動向

「外国語教育・国家戦略」推進のため、年間1,000万ポンド(約20億円)の予算措置がされた。また、EUを視野に入れた外国語教育のため、下記のEU教育プログラムへの積極的参加がある。

- 1) 「ソクラテス」(Socrates) : 総合的教育計画
  - 2) 「コメニウス」(Comenius) : 初等・中等教育計画
  - 3) 「リンガ」(Lingua) : 外国語教育計画
  - 4) 「エラスムス」(Erasmus) 大学生・教員・研究者のEU 15カ国加盟国間の相互交流推進計画
- 「エラスムス」計画では単位互換制、および登録料免除のシステムのもと、2010年には参加者300万人を目標としている。

「イングランド国家戦略」と「『英語が話せる日本人』育成のための戦略構想」

イングランド「外国語教育改革・国家戦略」は、“Languages for All : Languages for Life” の理念のもとに21世紀における地球市民として多言語運用能力と異文化理解が、必要不可欠であることを強調し、小学校 Key Stage 2 (7歳) から、大学教育、生涯学習に至までの外国語教育の推進を図ろうとしている。EU加盟国15カ国は、小学校から必修科目として外国語教育を実施している。

日本では、2002年、小学校「総合的学習」の時間に、国際理解教育の一環として英会話活動が導入されたが、イギリスやEU諸国のように、教科

としての外国語教育にはなっていない。

2002年7月「『英語が使える日本人』育成のための戦略構想」が文部科学省から公表された。国際社会に活躍する人材の育成を目標としているが、外国語教育が「英語」主導であり、外国語教育の理念、内容が乏しい。また、英語教員養成施策として、現職教育の長期海外研修が全国で年間28名では、不十分と考えざるを得ない。

愛知大学研究助成を受けてイングランドにおける調査研究を行ったものである。

## ジョージ・オーウェルの紅茶道

経営学部  
安藤 聡

紅茶を飲むときに、ティーカップに紅茶を注いでからミルクを加えるべきか、あるいはミルクをティーカップに入れておいてからその上に紅茶を注ぐべきか。これは長年にわたって英国で議論され続けてきた（この部分を英語で言えば時制は現在完了）重大な問題である。先日その論争について一応の終止符が打たれたようだ。王立化学協会の発表では、ミルクを先に入れておくことが「科学的に正しい」方法とのことである。これはジョージ・オーウェルの紅茶道に反することなのだが。いずれにせよ「ミルク後派」もこれから反論を試みるであろうから、論争はまだまだ続くであろう。だから現在完了なのである。

ジョージ・オーウェル（1903～50）は20世紀の

英文学を代表する作家のひとりである。本名をエリック・アーサー・ブレアというが、一説によるとイングランドを自分の故郷と認識し、ブレアというスコットランド的な姓を嫌ってジョージ・オーウェルというきわめてイングランド的な筆名を使ったという。小説家としては政治的寓話『動物農場』*Animal Farm*（1945）や近未来小説『1984年』*Nineteen Eighty-four*（1949）、ジャーナリストとしては『パリ、ロンドンどん底生活』*Down and Out in Paris and London*（1933）、『ウィガン波止場への道』*The Road to Wigan Pier*（1937）、あるいは『カタロニア賛歌』*Homage to Catalonia*（1938）などを著し、またエッセイスト、コラムニストとしても活躍した。有名なオーウェルの紅茶論は1946年1月12日に夕刊紙『イブニング・スタンダード』に掲載されたコラム「一杯の美味なる紅茶」‘A Nice Cup of Tea’に詳しく述べられている。今回の王立化学協会の発表も、オーウェルの生誕100周年を記念して行なわれたものであった。

オーウェルの紅茶道には「黄金の掬」と称される11箇条がある。原文を引用しながらこれらの黄金の掬を検討しよう。

(1) First of all, one should use Indian or Ceylonese tea.

茶葉の産地はインドかセイロン（現在のスリランカ）に限るのだそうだ。この箇条でオーウェルは、「中国茶にも... 多くの美点があるが、しかし中国茶には刺激が足りない」と付け加えている。ここでこの作家が言う中国茶とは、中国原産の紅茶ではなく普洱茶や茉莉花茶、あるいは烏龍茶のようなものことらしい。しかしキーマンとかアール・グレイとかラブサン・スーチョンとか、中国原産の茶葉を使った「英国式」紅茶も数多くあるし、かつて英国が中国の紅茶をしきりに欲しがった結果が阿片戦争である。インド、セイロンに良質な茶葉があることは事実だが、中国産の茶葉でいけない理由はない。「茶」と‘tea’は元来同じ語であり（フランス語の「テ」とかドイツ語の「ティー」とかインドあたりの「チャイ」とか、茶を表わす

語彙はきわめて広い範囲で同根である)、また紅茶も緑茶も黒茶も白茶も青茶も、茶葉を発酵させるプロセスや度合いが異なるだけで、葉の種類がそれほど大きく異なるわけではない。したがってこの第1条は、単にオーウェル個人の嗜好の問題と考えた方が良さそうだ。

(2) Secondly, tea should be made in small quantities that is, in a teapot.

ティーポット以外のティーポットより大きいもの(薬缶、洗面器、バケツ、ドラム缶など)で紅茶を入れてはいけないということである。ここでオーウェルは、ティーポットも陶器や磁器でなければならず、銀器やブリタニア器はあまり好ましくなく、エナメルは問題外だと述べている。因みに日本の喫茶店でときどき見かける円筒形のガラスの「茶器」は、英国では珈琲を入れるための道具である。オーウェルはピューター(白目錫)のティーポットを理想としているが、これはこのコラムが書かれた当時ですえすでに希少品(rarity)であったという。私たちが日本で紅茶を入れて飲む場合には、大きめの急須を使えばよいのである。

(3) Thirdly, the pot should be warmed beforehand.

これは常識中の常識と言ってよい。ティーポットが冷えていると湯を注いだときに湯の温度が少し下がるため、のちの第6条で詳しく述べることになるが、茶が十分に濃くならないのである。オーウェルはまた、ポットを暖めるに際しても、湯を注いで捨てる方法よりも炉棚にポットを置く方法を推奨している。この理由はここでは述べられていないが、おそらくは湯で温めるとポットの底に水分が残り、その温度がすぐに下がってしまうばかりでなく、茶葉を入れたときに茶葉があらかじめ水分を帯びてしまうからであろう。

(4) Fourthly, the tea should be strong.

これは好みの問題であろうが、英国では一般に濃い紅茶が好まれる。日本の水質には緑茶が、英国の水質には紅茶が適していることは言うまでもないが、英国の水道水にはカルシウム分が多く含

まれるため(何しろドゥヴァーの白い断崖を見れば、ブリテン島の特に南東部がいかにも石灰質を多く含んだ地質であるかがわかる)、紅茶の色と味は濃く出るが苦味はあまり出ないのである。日本で紅茶をあまり濃くしすぎると苦くなってしまいが、英国ではそのようなことはない。英国から紅茶を買って帰ってきて、日本で入れて飲んでも現地で飲むのと同じ味がしないのは、もちろん気分の問題もあるが、このように科学的にも根拠があることなのだ。しかしありがたいことに、日本の水質に適した紅茶もちゃんとある。英国のスーパーならどこにでもある「ヨークシャー」という紅茶(リーフティーとティーバッグの両方がある)がそれである。これはヨークシャー州のハロゲイトという温泉町で、その水質に合うようにブレンドされているものだが、この土地の水は日本の水に割と近い。ただし、ヨークシャー紅茶にはロンドンの水質に合わせたブレンドもあるので、間違えてこれを買わないように。

(5) Fifthly, the tea should be put straight into the pot.

つまりティーバッグや茶漉しなどの「茶葉を牢獄に閉じこめるような仕掛け」(devices to imprison the tea)は一切無用だということだ。ただし今日では通常の英国の一般家庭で消費される紅茶のほとんどはティーバッグであり、また余程高級な喫茶店でない限り、店に出される紅茶の圧倒的多数もティーバッグである。確かにリーフティーでしかも茶漉しなしの方が葉が十分に攪拌されるので、より濃く味も香りも優れた紅茶が入られることは事実であるが、カップに注ぐときにはストレイナーが必要であるし(オーウェルはこれも不要だと主張しているようだが)、後始末も面倒である。前項で述べたとおり水質が紅茶に適しているため、英国ではティーバッグの紅茶でも十分に美味なのだ。

(6) Sixly, one should take the teapot to the kettle and not the other way about.

この第6条こそが、オーウェル的紅茶道の最も注目すべき点である。このセンテンスだけを引用

すると何を言っているのかよくわからないという印象を禁じ得ないが、オーウェルは続けて次のように言う。‘The water should be actually boiling at the moment of impact, which means that one should keep it on the flame while one pours.’ つまりこの項目は、確実に濃く美味で香り高い紅茶を作るために、茶葉と湯の「衝撃の出逢い」(impact)の瞬間に湯は文字通り沸騰して (actually boiling) いなければならないと主張しているのであり、それ故に「ティーポットを薬缶のところまで持って行かなければならないのであり、その逆すなわち薬缶を持ってティーポットのところまで来ては絶対にいけない」(その間にほんの少しだが湯の温度が下がるので) ということなのである。

(7) Seventhly, after making the tea, one should stir it, or better, give the pot a good shake, afterwards allowing the leaves to settle.

ティーポットに湯を注いだのち、より濃く出すために少し攪拌するかポットを振り、そののちに茶葉を落ち着かせる。オーウェルはこの箇所ではティーポットの形態については言及していないが、茶葉をポットの中でより効率よく「踊らせる」ためには、なるべく球形に近いポットが望ましいということをつけ加えておきたい。

(8) Eighthly, one should drink out of a breakfast cup that is the cylindrical type of cup, not the flat shallow type.

要するにいわゆるティーカップではなく、マグカップで飲めということだ。理由はマグカップの方が冷めにくいから。念のため、‘out of’が‘from’と同じ意味だということは知っているね？

(9) Ninthly, one should pour the cream off the milk before using it for tea.

昔ながらの牛乳は、しばらく時間が経つと脂肪分が上の方に浮いてくるものである。この浮かび上がった脂肪分が固まりかけたものを「クリーム」と呼んでいる。紅茶に使う場合はこれを取り除いておかなければならないということである。日本

の喫茶店の中には、紅茶用のミルクを温めて持ってくるところがあるが、加熱した牛乳は独特の臭いを放つので、紅茶の味と芳香を著しく損なう。それから、オーウェルの紅茶論においては、ミルクを入れずに飲むという選択肢は前提として存在していない。ついでながら、「あいぼく牛乳」は紅茶に入れると極めて美味であることを付け加えておきたい。

(10) Tenthly, one should pour tea into the cup first.

この項目が最も論争を呼んでいる点であり、オーウェルも ‘This is one of the most controversial points of all’ と続けている。オーウェルの論拠は、ミルクを後に入れる方が入れるべきミルクの量を間違えずに済むということである。先頃の王立化学協会の見解ではしかしながら、熱い紅茶の上にミルクを注ぐとミルクの中の蛋白質が紅茶の熱で変性して風味が落ちる、とのことである。「ミルク後派」は上流階級に多く、労働者階級には「ミルク先派」が多いという風説もあるがかなり眉唾ものである。自炊生活が長かった私は、王立化学協会とはまったく異なった理由で長年「ミルク先派」である。つまり、ミルクを先に入れておけば後でかき混ぜる必要がなく、したがってティースプーンを洗う手間が省けるということである。

(11) Lastly, tea unless one is drinking it in the Russian style should be drunk without sugar. (斜字体原文)

オーウェルは ‘I know very well that I am in a minority here.’ と続けているが、一方で「砂糖を入れるくらいなら胡椒か塩を入れても大差ない」とまで言っている。紅茶に砂糖を入れて飲むような「間違った人々」(misguided people) に対してこの作家は次のように語りかけている。‘Try drinking tea without sugar for, say, a fortnight and it is very unlikely that you will ever want to ruin your tea by sweetening it again.’ これは「命令文+and」の構文ですね。「～しなさい、そうすれば…」という意味です。途中に挿入されている ‘say’ は

「たとえば」、「まあ言ってみれば」くらいの意味、'fortnight' は「二週間」で語源は 'fourteen nights' でしょう。それから 'ruin' は「廃墟」という名詞としての意味を知っていれば、ここで使われているような動詞としての意味も文脈から推測出来るでしょう。

オーウェルがこのコラムを書いたのは第二次世界大戦後間もない頃であり、当時は紅茶の葉ももちろん配給制だった。したがってそこに述べられている紅茶道もまた、限られた貴重な茶葉からいかに濃い美味しい紅茶を出すか、という一点にその主な関心が集中しているのである。なお、このコラムはペンギンのペーパーバック *The Collected Essays, Journalism and Letters of George Orwell* の第3巻に収録されている。岩波文庫が平凡社ライブラリーのいずれかに邦訳があったと思う。

## たばこ屋店主たちのストライキ フランスの喫煙事情

経営学部  
田川 光照

前号と前々号の「海外最新事情」の欄で、フランスの学校教員たちのストライキを紹介した。フランスでは学校関係をはじめ交通関係などあらゆる職種のストライキやデモがしょっちゅうと言ってよいほどあり、珍しいものではない。しかし、2003年10月20日に、前代未聞、史上初と言われるストライキがあった。それはたばこ屋店主たちのストライキである。

ことの発端は、2003年1月にたばこの価格が8

%ないし16%値上げされたが、10月20日にさらに20%値上げされた上で、2004年1月にも20%の値上げが予定されていることにある。この値上げは、たばこ税の引き上げに連動したものであるが、この増税の中心的な目的は癌対策にある。

フランスでは1年間に15万人が癌で死んでいるがそのうち3万人が肺癌によるものであり、この3万人という数は交通事故による死者の4倍に当たるといえる。1999年にとられた統計によると、とくに男性の癌（肺癌だけではなく、すべての癌）による死亡率はEU諸国の中でも最高に位置し、スウェーデンを50%、ドイツとイギリスを20%上回っている。他方、女性の癌による死亡率はEU平均を10%下回っており、男性に比べればはるかにましな状況にある。とはいえ、1960年代以降女性の喫煙者が増え続けており、女性の肺癌による死亡率が1994年から1999年の間に40%増加しているという現実があるので、楽観視することは出来ない。こうしたことを背景に、フランス政府は向こう5年間で現在1400万人いる喫煙者を大幅に減少させる目標を2003年3月に立てたのである。具体的には未成年の喫煙者（17歳から19歳までの層の40%が喫煙している：ただし、違法ではない）を30%、成人の喫煙者（36%が喫煙している）を20%それぞれ減らそうというのである。矢継ぎ早なたばこ税の引き上げ、それにともなうたばこの値段の高騰はその一環としてある。

しかし、たばこ屋店主からすれば、この値上がりによって収入が減ることは確実である。これまでフランスでは3万4000人のたばこ屋店主が年間145億5000万ユーロ（10月21日のレート、1ユーロ=129.21円で計算 以下同じ）すると1兆8735億円）を売り上げ、12万人の従業員を雇い、1日に1100万人の客を相手にしていた。しかし、1月の値上げ以降たばこの販売量がすでに9%落ち込んでいると、たばこ屋の団体が指摘している。そのうえ、10月20日、さらに2004年1月に値上がりすれば、たばこ屋店主たちにとって死活問題となる。

ところで、たばこ屋店主たちが恐れているのは、

単に喫煙者が減って売り上げが少なくなるということだけではない。次の数字を見ていただきたい。1月の値上げ以降、フランス全体では売上高が2%減、客数が5%ないし10%減であるのに対し、国境に接する諸県では売上高が10%ないし20%減、客数が25%減となっているのである。これは顧客の国外流出を意味している。つまり国外にたばこを買いに出るのである。すでに、国境近くの地域では喫煙者の11%が1週間に最低1回は国外でたばこを入手しているという。この傾向がさらなる値上げによって加速することは目に見えている。ちなみに、10月20日の値上がりによって、フランスのたばこの値段は1箱平均4.60ユーロ（594円）となる。この時点でのヨーロッパ諸国のたばこ1箱の平均価格は次の通りである（高い順に）。

イギリス：6.70ユーロ（4.70ポンド、866円）  
アイルランド：5.90ユーロ（762円）  
スウェーデン：4.35ユーロ（39.50クローネ、563円）  
ベルギー：3.70ユーロ（478円）  
スイス：3.30ユーロ（5.10スイスフラン、426円）  
ドイツ：3.20ユーロ（413円）  
イタリア：3ユーロ（388円）  
ルクセンブルク：2.85ユーロ（368円）  
ギリシア：2.70ユーロ（349円）  
スペイン：1.85ユーロ（239円）

イギリスとアイルランド以外の国はすべてフランスよりも安いことになり、しかも、ベルギー、スイス、ドイツ、イタリア、ルクセンブルク、スペインはフランスと地続きで国境を接している。とりわけイタリア、ルクセンブルク、スペインのたばこは安く、国境まで車で1～2時間の所に住んでいる住民なら当然国外に買いに行くであろうし、それら安い国のたばこの密売がフランスで横行する恐れもあるのである。

フランス政府もたばこの値上げがたばこ屋に打撃を与えることは十分に分かっている。そこで、10月20日の値上げの1週間ほど前に、たばこ屋店主たちに補助金を出すことを発表している。総額は1億3000万ユーロ（168億円）で、その支給方法は次の通りである。売上高が年間15万2000ユーロ

（1964万円）以下のたばこ屋については手数料を現行6%から8%へ引き上げ、売上高が15万2000ユーロから30万ユーロ（3876万円）までのたばこ屋については同じく6%から6.7%に引き上げる。また、2003年度の売上高が2002年度比で5%以上の減があったたばこ屋にも補助金を出す、というものである。

しかし、たばこ屋店主たちはこれでは不十分であるとして、10月20日、全国3万4000人の90%がストライキに入ったのである。店を閉め、全国80ヶ所以上で集会・デモが行われた。この史上初のストライキに対する国民一般の評価はといえば、あまりかんばしいものではない。インターネット上で行われたある調査によると、10月22日現在でたばこ屋店主たちの運動を支持する人は28%にすぎず、支持しない人の57%を大きく下回っている。また、公衆の健康のための値上げを支持するという人が50%、支持しないという人が29%となっているのである。

付記：この文章は、主としてAP、AFP、Reutersなどの通信社が2003年10月20日前後に配信した記事を土台にしたものである。

# (海外最新事情)

## イギリス

### ロアルド・ダールの幻の小作品

ロアルド・ダールの未発表作品が発見された。それも海辺の小さな町の小学校教師の自宅から。それはわずか10行からなる短い詩だが、書かれてから14年ものあいだ、他の書類に紛れて放置されていたという。ニュースソースは2003年10月18日付の『インディペンデント』紙である。

ロアルド・ダール (1916~90) は今なお英語圏で最も人気のある童話作家のひとりである。ウェイルズの首都カーディフに近いサンダフ (Llandaff) でノルウェイ人の両親のもとに生まれ、地元のグラマー・スクールを卒業して18歳でシェル石油に就職、第二次大戦では空軍のパイロットを勤めた後、専業作家として成功した。代表作として長編童話『チョコレート工場の秘密』 *Charlie and the Chocolate Factory*、『マチルダは小さな大天才』 *Matilda*、『魔女がいっぱい』 *The Witches* の他に大人向け「童話」といわれる『オズワルド叔父さん』 *My Uncle Oswald*、短編小説集『あなたに似た人』 *Someone Like You*、また自伝『少年』 *The Boy* などがある。平易な英語で書かれた奇想天外な物語は、英語学習者が原文で読破するのもにも適している。ほとんどの作品がパフィン、ペンギンいずれかのペーパーバックで入手可能である。

発見された原稿はイングランド南海岸のドーセット州クライストチャーチにある小学校の生徒たちのために書かれたものだった。内容は生徒の耳をひねるという体罰を繰り返す残虐な教師を諷刺したものである。この教師は歴史の授業で年号を暗記できない生徒の耳をちぎれるまでひねり続けるので、そのクラスには耳が片方しかない生徒が大勢いる。そして最後に、君たちの先生はこんなにひどい先生でなくてよかったね、という結論に至

る。いかにもダールらしい作品である。ついでながら一部の想像力が欠落した愚かな親や教師は、この種の「残虐性」を理由にダールの作品を子供に読ませたくない主張する。

クライストチャーチのこの小学校の教師ジェニー・シボールドは、生徒たちが送ったファンレターに対する返事としてダールから届いた手紙に添えられたこの詩を、未発表の作品だとは夢にも思っていなかったらしい。今回校長のマーク・ロヴィーがロアルド・ダール基金協会に問い合わせたことで、幻の未発表作品であることが判明した。

それにしてもダールから手紙が来るとは、何と羨ましい小学校であることかと思っていれば、今度はマドンナが小学校に自作の童話『イングリッシュ・ローズ』を朗読に来るといふ企画があるらしい。10月24日付の『タイムズ』紙によると、タイムズとペンギンの共催で英国全土の7歳から11歳の小学生を対象に1000語以内の短編童話を募集し、その優勝者の学校にマドンナが朗読に行くとのことだ。最近マドンナは何かとアメリカ合衆国に対して批判的であり、ロンドン郊外に居を構えて普段は英国で生活しているらしいが、ともあれダールからの手紙とマドンナの来訪では、後者の方がより羨ましい気がする。(安藤 聡)

## アメリカ

### Spanglish!?

今、あることばが Unaited Esteits を席卷しようとしています。まさにその綴りに代表されるように、Spanglish と呼ばれるスペイン語綴りの英語のことです。といってもその形式はまちまちで、(1) 英語とスペイン語を交互に織り交ぜたコード変換 (code switching) と呼ばれるものから、(2) スペイン語の母体 (文法) に英語表現の直訳をちりばめた形、(3) スペイン語表現を英語

の文法に沿って表したものの、(4)そして英語表現をスペイン語の(あるいはその起源であるラテン語式の)音声表記に置き換えた類のものまであります。このままではわかりにくいでしょうから、(雑誌の見出し風に)日本語と英語で同じことをしてみるとこんな感じでしょうか。(1)「2004 Winter, 男を磨く Ranch coat!」、(2)「NY摩天楼 (sky scraper より) と聖林 (ハリウッド: holy wood との誤解から) の生活術」、(3)うーん、むつかしいけど、「彼が知っているとは思わない」みたいな、いわゆる直訳調日本語、(4)そして「この冬、<sup>アメリカ</sup>亜米利加で暮らす!」となるでしょうか。上記の Unaited Esteits はこの最後の例です。

このような社会現象に目を向けるきっかけ(あるいはその火付け役)となったのが、名門 Amherst College でスペイン語と作文術を教える Ilan Stavans 教授です。Spanglish: The Making of A New American English (2003) という本を出版し、4500語(現在はそれ以上)からなる Spanglish-English の対応表を組み込んだ画期的なものです。メキシコ系ユダヤ人でイディッシュ語(おもに欧米のユダヤ人が用いる言語で絶滅が危ぶまれる)を母語とするこの方、イディッシュ語の癖は踏ませまいとスペイン語と英語に引き裂かれたアイデンティティー救済のため、Spanglish を一つの社会方言として定着させ、米国におけるこれからのヒスパニック系の若者の社会進出や教育に役立てるといふ崇高な目的を掲げています。また、(悪名高き)英語の音声と綴り字の不一致もこの動きに加担しています。(古英語では綴り字と発音が90%以上一致していましたが、現代英語ではほんの40%に過ぎません。)もちろんこのような発想は多くの敵を生みました。純粋なスペイン語擁護論者や英語を合衆国の国語に制定しがっている層からは破壊者呼ばわりされ、一部の社会団体からは、ヒスパニックへの偏見を助長し社会進出への弊害だとして糾弾されるなど、Spanglish の認知はイバラの道です。

2000年の全米国勢調査において、いまやヒスパニック(12.5%)は、黒人(12.1%)を抜いて米国最大のマイノリティ集団となりました。増加率はどの民族集団よりもずば抜けています。しかし、一口にヒスパニックといってもその出自はさまざま

です。最大のメキシコ系(約60%)を筆頭に、プエルト・リコ系(約10%)、キューバ系(3.5%)、ドミニカ系(2.2%)などが続きます。また彼らの主な居住地も NY ブロンクス、カリフォルニア、アリゾナ、テキサス、フロリダなど全米に渡っています。そしてこのそれぞれに特有の Spanglish があるわけです。私がかつて住んでいたアリゾナ州のツーソンでも、至る所でスペイン語が聞かれました。そして1998年当時でさえも、スペイン語のTV番組に加えて Spanglish の(!)DJ放送などがありました。当時は驚きとともに受け止めた Spanglish ですが、上記のような本が出版される現状から推測するところ、全米的に(幾分の)市民権を得始めているということでしょう。また、このような混交言語は世界的な趨勢ともいえます。Singlish (シンガポール・イングリッシュ)、Janglish (ジャパニーズ・イングリッシュ)、Franglais (フラングレ: 英語多用のフランス語)、Denglish (デングリッシュ: ドイツ語・英語混用)など、数え上げたらきりがありません。良くも悪くも、文化的・民族的価値を代表する母語と、グローバル化の権化たる英語との折り合いを付けようとする民衆の欲求と知恵の産物なのでしょう。(片岡邦好)

## ドイツ

### 20世紀を生きぬいた映画監督レニ・リーフェンシュタール

ドイツの女性映画監督レニ・リーフェンシュタールさんが、2003年9月8日ドイツ南部ベッキングの自宅で亡くなった。彼女は1902年生れで、前月の8月22日に101歳の誕生日を祝ったばかりだった。20世紀のほとんどを覆う彼女の生涯は、あまりにも華々しく、そして苛酷だった。

20歳代のはじめモダンダンスの世界でデビューし、伝説のダンサー、イサドラ・ダンカンやアナ・パブロワの後継者と目されていたが、膝を痛めて挫折する。その後映画の世界に転身し、名女優マレーネ・ディートリヒとほぼ同時期に女優としての活動を開始した。その後彼女は一連の山岳映画で主演をつとめ、『青の光』(1932)では監督・主演・編集を独力で成し遂げ、映画監督としての

才能を開花させた。

そんな彼女の才能に目をつけたのが、権力を掌握したばかりのヒトラーであった。『青の光』を見た彼は首相官邸から直々に党大会の記録映画を依頼してきたのだ。彼女は最初は断ったというが、はたして当時いったい誰がその誘惑を断ることが出来ただろうか、そもそも断ったとしてもそれが許されたのだろうか。しかし当時は多くの才能ある若い人たちがそうやってチャンスをつかんでいったのは事実だった。

ナチス党大会の記録映画『意思の勝利』(1934)は、権力者の期待に見事に応えたものだった。彼女はさらに、ナチスが威信をかけた一大祭典ベルリン・オリンピックの記録映画を任されることになった。これが傑作『オリンピア』(『民族の祭典』と『美の祭典』の2部作、1938)である。この作品はヴェネチア国際映画祭で最高賞を受賞した、その後の記録映画にあてたこの作品の影響は計り知れない。このとき彼女は36歳、人生の絶頂期だった。

その後の彼女の人生は暗転する、戦後ナチスの協力者として約4年間収監された。映画の世界の表舞台からは姿を消していた。

しかし彼女は芸術の世界、映画の世界を信じ続けていた、みずから信じる美を辛抱強く求め続けていたのだ。彼女は71歳のときアフリカのヌバ族を題材にした写真集を発表し、写真家として人々の前に姿をあらわした。そして80歳代でみずから海に潜り海中撮影をこなし、100歳のとき映画『原色の海』を発表するなど積極的な活動は死の直前までおとろえることがなかった。

まさに彼女は映像の世紀とよばれた20世紀の申し子だった。そして時代はその子に才能を与えはしたが、決して甘やかすことはしなかったのである。(島田 了)

## フランス

### ムーラン・ルージュに罰金刑

フランス一の歓楽街といえ、パリのピガール地区 Pigalle だ。Star-Dust, Taxi Girls, Noctambules (夜遊び好き) などその数50ほどのゴーゴ・バー bars à gogo やキャバレ cabarets が

集まるピガール広場で、最近また、この街の評判を悪くする出来事があった。世界的に名を知られたキャバレ、ムーラン・ルージュ Moulin Rouge (赤い風車) が人種差別の罪で巨額の罰金に処せられたのだ。

話は2年前に遡る。セネガル国籍のマレガ氏はこの店に職を求めたが、表向きスペイン語が話せないとの理由で採用されなかった。応募資格には要求されていなかったことだ。そこで、「人種差別 SOS」に事情を話し、この団体とともに、この店と店の人事担当秘書ミシュリーヌ・ブジを訴え出た。2002年11月22日の初審判決で、原告マレガは損害賠償金と利子4,500ユーロ、「SOS」は2,300ユーロを得た。また、ブジには3,000ユーロの罰金が言い渡された。訴訟費用900ユーロは敗訴側持ちになった。キャバレと彼女はただちに控訴したが、今年10月18日の判決で、ムーラン・ルージュに10,000ユーロ(126万円)、採用担当者には1,500ユーロの罰金が言い渡された。「勝つとは思っていたが、こんなに完璧にとは！」と、「SOS」の副会長は驚いている。

「このキャバレでは、採用時に黒人をはずしている」というのが、勝訴側の言い分だった。ミシュリーヌは、「調理室では黒人は採用しています」と反論していた。調査の結果、この店では、40年余り前から客席担当者には一人の有色人も採用したことがないのがわかった。

革命以来、自由 Liberté、博愛 Fraternité とともに平等 Egalité を国政の理念に掲げる国フランス。政治亡命者を積極的に受け入れ、人権尊重については大びらに発言が繰り返されてきた。民間でも平等は尊重されて差別はなかったはずだ。(実際には、どこにでも差別はある。人は差別好きだ。差別して自己の弱みを隠そうとする。)

首都パリは、ニューヨークとともに世界の人類の見本市のような場所だ。ピガール広場へ行けば、あらゆる国の人々に会うことができる。旅行者は、シャンゼリゼ Champs-Élysées、エッフェル塔 Tour Eiffel、ルーブル Musée du Louvre と見てまわった後、必ずこのネオン輝く夜の町を訪ねる。ミニスカート mini-jupe の女の子 filles は路上で客引きができる。だが、これはもう昔の話だ。取り締まりが厳しくなり、パクられる se faire piquer ことをこわがって、ウィンク oeilade も

派手な姿もバーの奥が、どこか遠くに消えた。人々は寄りつかなくなり、モンマルトルのサクレ・クールの方へ流れるようになった。「ピガールはもうピガールではない」、と広場を知る人は言う。

これまでたんまり à grands flots 儲けていたバー、キャバレのオーナーたち patrons は、あわてだし、無理するようになった。80年代以降この町は物騒になった。詐欺、背信、現金強奪がひどくなった。放埒 débordements、不法行為 pratiques が増えたのだ。すり pickpockets が待ち伏せているから、かっぱらわれに se faire arnaquer、行くようなものだ、との評判が立つ。客引き rabatteurs、ぼん引き proxénètes の数は増えに増えて、ショーはタダだ gratuit と言われて喜んで不用心なかも gogo は、連れ込まれた店で、女たちから寄って集って飲まされる。もういいと言って出ようものなら、客が少ないことに腹でも立てたかのようにふっかけてきて saler la note (l'addition)、1,500ユーロ以上にもなる勘定書 la note (l'addition) を突きつける。客がつべこべ言おうものなら、入れ墨をした荒くれ者 gros bras が腕組みして待ちかまえている。客は、金ばかりか、キャッシュカード carte bleue、時には後々圧力をかけるためか身分証明書 carte d'Identité のコピーまでとられる始末。身ぐるみはがれて se faire plumer 放り出されるという仕掛けだ。「ピガールは旅行客が破滅しに行く aller se perdre 街だよ」と、ある警官は言っている。

苦情の多さに、パリ警察はピガール浄化 assainir に乗り出した。パトロンたちを監視し、同じ施設で3回苦情があれば9日間の閉鎖など(特に厳しい場合半年にわたることもある)言い渡してはいるが、ごろつきども bandits はどこの国でも手強いものだ、同じ犯罪 délits を繰り返す。「外国人にパリの悪いイメージを与えてしまう」と、専門家は嘆いている。落ちた評判は回復が難しい。

ともあれ、今度の裁判は、フランス司法の健全さを示す一方、ますますこの歓楽街の将来が怪しくなったことを証明した。(河原誠三郎)

## 中国

### 見る、聞く、読む、中国最新情報

CNNIC「中国インターネット信息中心」(China Internet Network Information Center)が公表した2003年7月の統計によれば、中国では、ユーザの1週あたりの平均利用時間は13時間、1週あたり平均4.1日、インターネットにアクセスしています。ユーザ総数は6,800万人、接続方式別では、専用線接続で2,342万人、ダイヤルアップ接続で4,501万人、ISDN回線接続が490万人、ADSLやケーブルモデムといったブロードバンド接続が980万人です。接続別ユーザ数には複数の接続方式をとるユーザが含まれています。これらの方式に加え、モバイル端末や情報家電を利用してアクセスするユーザが180万人となっています。Webサイトもおよそ473,900あり、中国から発信される情報もますます増加しています。このことから、視点を少し移動させ、オンラインによる最新情報の集め方に注目してみました。

さて、学生のみなさんは、中国に関する情報を、どのように入手しているのでしょうか。Webサイトの検索、メールマガジンやメーリングリストを利用するというのが基本的な方法ですが、中国語のサイトを見るには、まだ力不足だと感じている場合でも、日本語で書かれた「日文版」サイトを通じて、中国の最新情報を入手できます。

人民日報Web版である「人民網」には、日本のトピックを主とする「日本版」と日本語の「日文版」サイトがあります。毎日「日文版」をチェックするだけでも、中国の現在の動向を把握できるでしょう。「北京週報Web版」にも「日文版」がありますし、さらに、月刊誌「人民中国」のサイトも参考になります。

中国国際放送局の北京放送Webサイトも内容が豊富で、定期的にチェックすることを勧めます。中国国際放送局ではWebラジオとして日本語や中国語放送のサービスも提供しているので、ニュースを聞くこともできます。ストリーミング放送としては、中央電視台 CCTV では、インターネットでテレビ放送のライブ配信をしています。また、オンデマンド方式で、動画データを見ることも可能です。

これ以外にも、いろいろなサイトがありますが、例えば日経 BP 社が提供する「Biz Tech」の中国チャンネルもビジネス関連の最新動向速報を配信しています。このサイトは、さまざまなニュースソースから、記事が集められています。

Webサイトを毎日チェックしていたのでは、時間がいくらあっても足りません。「人民網日文版」はメールマガジンを発行しています。配信されたメールから、トピックと概要を読んで、サイトにアクセスするかどうかの判断をするのに役立っています。

ここで注意しておきたいのが、どのメールアドレスに配信させるかということです。一つのアドレスだけで処理する場合、メールソフトで仕分け設定をするなど、受信したメールを整理、管理しないと、すぐに、メールがたまってしまいます。特に、日刊ペースで配信されてくるタイプのものは、読まなくなる、読む気がなくなることもあるので、要注意です。メールマガジンをたくさん登録しても、多くのメーリングリストに参加しても、結局は、未読のままでは意味がありません。

筆者の場合、複数のメールアドレスを活用しています。無料のWebメールを利用し、メールマガジンの配信先アドレスとして登録しておきます(場合によっては、無料のWebメールを配信先に指定できないこともあります)。こうすることで、どこからでも情報を見ることができるようになっています。Webメールは容量が限られているので、必要なものは、個人用のメールアドレスに転送し、それ以外はどんどん削除しています。

最後になりましたが、メールマガジンにしる、Webメールにしる、有料無料の区別は当然としても、しっかりと内容を吟味し、注意書きや但し書きを確認して、使用することを忘れないで下さい。

CNNIC <http://www.cnnic.net.cn/>

人民網日文版 <http://j.people.ne.jp/home.html>

人民網日本版 <http://japan.people.com.cn/>

人民網 <http://www.people.com.cn/>

北京週報日文版 <http://www.pekinshuho.com/>

北京週報 <http://www.beijingreview.com.cn/>

人民中国 <http://peopleschina.com/index.shtml>

Biz Tech中国チャンネル

<http://biztech.nikkeibp.co.jp/biztech/china/>  
中国国際放送局北京放送

<http://japanese.cri.com.cn/>

Radio 4 U 日本語放送

<http://online.cri.com.cn/radio4u/japanese.html>

Radio 4 U 中国語放送

<http://online.cri.com.cn/radio4u/standard.html>

中国中央電視台 <http://www.cctv.com>

(吉川 剛)

#### 編集後記

「語研ニュース」第10号をお届けします。21世紀になっても明るい未来は見え、2003年でもまたイラク戦争ではじまり、戦争後も情勢は悪化するばかりです。「力」の論理では平和がもたらされないことは明らかです。何よりも重要なのはコミュニケーションであり、「力」の論理はそのコミュニケーションの放棄であると言えるでしょう。コミュニケーションを支えるのは言葉です。外国語学習の目標は当該外国語の運用能力を身に付けることですが、それはコミュニケーションによる相互理解の可能性を広げることであると言えるのではないのでしょうか。以上は、まもなく2003年を終えるに当たっての雑感です。(MT)